

Wasted Tears

音楽をBGMとして聞き流す人もいるが、たまにはじっくりと聴いてみるのも良いのではないだろうか。今回はそんな時にふさわしい浜田省吾のアルバム『Wasted Tears』を紹介する。ぜひ、これから述べるような聴き方をしてみてください。

まずは、ひとつひとつの音にじっくりと耳を傾けてみてほしい。歌声が旋律に溶け込み心の中に流れこんでくる。それと同時に、音に身体全体が包み込まれ、その中で浮かびながら漂っているような不思議な気分になる。また、主張の激しい音は全く含まれていないにもかかわらず、柔らかい音の総和は聴き手にはっきりとした印象を与え、いつまでも耳に残って鳴り響いていることに気がつくはずだ。その静謐で美しい世界から出ていきたくない、そんな気持ちに駆られてしまう。そして思わず、最初からもう一度聴きなおしてしまうのだ。

何度か聴いたら、今度は歌詞に目を向けてみてほしい。紡がれたひとつひとつの言葉は、時に技巧的で時に感情的にも思われる。描かれた登場人物の心の動きが冒頭のたった数語で伝わってきて、そこに引き込まれていくような感覚に襲われてしまう。一度引き込まれると、その後は描きだされている情景が頭の中で次々と像を結んでいく。その世界は切ないながらもどこか美しい。

最後に、もう一度アルバムを最初から聴いてみてほしい。今度はひとつひとつの言葉をかみしめながら。きっと、さっき歌詞を読んだときにできあがった情景が一層くっきりと鮮やかに感じられるはずだ。そして、ひとつひとつの音に感情が宿って訴えかけてくるような印象を受けるだろう。このとき初めて気付かされるのだ。この言葉はひとつひとつの音のために作られていて、この音はひとつひとつの言葉のために作られていることに。

そしてまた最初から聴きなおしてしまうだろう。いつまでも、いつまでも……



『Wasted Tears』 浜田省吾

定価：2,935円（税込）

発売日：1989年9月1日

発売元：ソニー・ミュージック
エンタテインメント

1. LONELY

2. SILENCE

3. BREATHLESS LOVE

etc.